



秋季例大祭で本殿に参向する天皇陛下の勅使=10月18日、靖国神社で



「みんなで靖国神社に参拝する国会議員の会」を代表して昇殿した尾辻秀久会長=10月19日、靖国神社で

靖国神社秋季例大祭は、例大祭期間も十月十七・十八日の二日間に短縮して執り行われた。十八日の当日には天皇陛下から勅使が差し遣わされ御幣帛が奉納された。また、九月十六日に就任した菅義偉内閣総理大臣はじめ、本会水落敏栄会長名で大真神を奉納した。

東京・靖国神社では、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から参列者を縮小し、例大祭期間も十月十七・十八日の二日間に短縮して執り行われた。十八日の当日には天皇陛下から勅使が差し遣わされ御幣帛が奉納された。また、九月十六日に就任した菅義偉内閣総理大臣はじめ、本会水落敏栄会長名で大真神を奉納した。

靖国神社秋季例大祭は、例大祭期間も十月十七・十八日の二日間に短縮して執り行われた。十八日の当日には天皇陛下から勅使が差し遣わされ御幣帛が奉納された。また、九月十六日に就任した菅義偉内閣総理大臣はじめ、本会水落敏栄会長名で大真神を奉納した。

靖国神社

秋季例大祭を斎行

菅総理が大真神を奉納

令和2年11月15日
第839号

一般財団法人日本遺族会
〒107-0061 東京都千代田区九段南一丁目六番三号
電話 03-3261-5521
振替共行人 盛川英治
毎月1回15日発行
定価 1部30円(税込)

日本遺族会は、国の礎となられた英靈顕彰をはじめ、戦没者の遺族の福祉の増進、慰藉救済の道を開くと共に、道義の昂揚、品性の涵養に努め、世界の恒久平和の確立に寄与することを目的とする。



中内桂郎氏 (81歳)
元本会理事、元高知県
遺族会会長
▼旭日双光章
中井靖教氏 (82歳)
本会評議事、奈良県遺族会会長
赤石一夫氏 日本遺族会
元理事、群馬県遺族の会
元会長
▼旭日双光章
坪倉大作氏 (84歳)
本会評議事、奈良県遺族会会長
赤石一夫氏 日本遺族会
元理事、群馬県遺族の会
元会長
十日十六日、逝去された八十五歳。葬儀は群馬県沼田市のJAアシストホールで行われた。喪主は孫俊祐氏。

十月十六日、逝去された八十五歳。葬儀は群馬県沼田市のJAアシストホールで行われた。喪主は孫俊祐氏。

兵や引き揚げ者たちを励ますように放送協会(NHK)が特別ラジオ番組を企画し、その中で流す歌の

旋律に合わせて書いた藤原信氏の「星月夜」だった。

その後、南からの復賓

して、萬葉ゆりか、云々の子

供たちが「里の秋」を奉

うるは、「静かな静かな

里の秋」お吉に木の美の

落ちる夜は、「ああ母さん

とだ下」栗の実煮ま

すいろいろは、「この歌の基

になったのは、戦地の父

の慰問文として書いた藤原

信氏の「星月夜」だった。

い、萬葉ゆりか、云々の子

供たちが「里の秋」を奉

うるは、「静かな静かな

里の秋」お吉に木の美の

落ちる夜は、「ああ母さん

とだ下」栗の実煮ま

すいろいろは、「この歌の基

になったのは、戦地の父

の慰問文として書いた藤原

信氏の「星月夜」だった。

い、萬葉ゆりか、云々の子

供たちが「里の秋」を奉

うるは、「静かな静かな

里の秋」お吉に木の美の

落ちる夜は、「ああ母さん

とだ下」栗の実煮ま

すいろいろは、「この歌の基

になったのは、戦地の父

の慰問文として書いた藤原

信氏の「星月夜」だった。

い、萬葉ゆりか、云々の子

供たちが「里の秋」を奉

うるは、「静かな静かな

里の秋」お吉に木の美の

落ちる夜は、「ああ母さん

とだ下」栗の実煮ま

すいろいろは、「この歌の基

になったのは、戦地の父

の慰問文として書いた藤原

信氏の「星月夜」だった。

い、萬葉ゆりか、云々の子

供たちが「里の秋」を奉

うるは、「静かな静かな

里の秋」お吉に木の美の

落ちる夜は、「ああ母さん

とだ下」栗の実煮ま

すいろいろは、「この歌の基

になったのは、戦地の父

の慰問文として書いた藤原

信氏の「星月夜」だった。

い、萬葉ゆりか、云々の子

供たちが「里の秋」を奉

うるは、「静かな静かな

里の秋」お吉に木の美の

落ちる夜は、「ああ母さん

とだ下」栗の実煮ま

すいろいろは、「この歌の基

になったのは、戦地の父

の慰問文として書いた藤原

信氏の「星月夜」だった。

い、萬葉ゆりか、云々の子

供たちが「里の秋」を奉

うるは、「静かな静かな

里の秋」お吉に木の美の

落ちる夜は、「ああ母さん

とだ下」栗の実煮ま

すいろいろは、「この歌の基

になったのは、戦地の父

の慰問文として書いた藤原

信氏の「星月夜」だった。

い、萬葉ゆりか、云々の子

供たちが「里の秋」を奉

うるは、「静かな静かな

里の秋」お吉に木の美の

落ちる夜は、「ああ母さん

とだ下」栗の実煮ま

すいろいろは、「この歌の基

になったのは、戦地の父

の慰問文として書いた藤原

信氏の「星月夜」だった。

い、萬葉ゆりか、云々の子

供たちが「里の秋」を奉

うるは、「静かな静かな

里の秋」お吉に木の美の

落ちる夜は、「ああ母さん

とだ下」栗の実煮ま

すいろいろは、「この歌の基

になったのは、戦地の父

の慰問文として書いた藤原

信氏の「星月夜」だった。

い、萬葉ゆりか、云々の子

供たちが「里の秋」を奉

うるは、「静かな静かな

里の秋」お吉に木の美の

落ちる夜は、「ああ母さん

とだ下」栗の実煮ま

すいろいろは、「この歌の基

になったのは、戦地の父

の慰問文として書いた藤原

信氏の「星月夜」だった。

い、萬葉ゆりか、云々の子

供たちが「里の秋」を奉

うるは、「静かな静かな

里の秋」お吉に木の美の

落ちる夜は、「ああ母さん

とだ下」栗の実煮ま

すいろいろは、「この歌の基

になったのは、戦地の父

の慰問文として書いた藤原

信氏の「星月夜」だった。

い、萬葉ゆりか、云々の子

供たちが「里の秋」を奉

うるは、「静かな静かな

里の秋」お吉に木の美の

落ちる夜は、「ああ母さん

とだ下」栗の実煮ま

すいろいろは、「この歌の基

になったのは、戦地の父

の慰問文として書いた藤原

信氏の「星月夜」だった。

い、萬葉ゆりか、云々の子

供たちが「里の秋」を奉

うるは、「静かな静かな

里の秋」お吉に木の美の

落ちる夜は、「ああ母さん

とだ下」栗の実煮ま

すいろいろは、「この歌の基

になったのは、戦地の父

の慰問文として書いた藤原

信氏の「星月夜」だった。

い、萬葉ゆりか、云々の子

供たちが「里の秋」を奉

うるは、「静かな静かな

里の秋」お吉に木の美の

落ちる夜は、「ああ母さん

とだ下」栗の実煮ま

すいろいろは、「この歌の基

になったのは、戦地の父

の慰問文として書いた藤原

信氏の「星月夜」だった。

い、萬葉ゆりか、云々の子

供たちが「里の秋」を奉

うるは、「静かな静かな

里の秋」お吉に木の美の

落ちる夜は、「ああ母さん

とだ下」栗の実煮ま

すいろいろは、「この歌の基

になったのは、戦地の父

の慰問文として書いた藤原

信氏の「星月夜」だった。

い、萬葉ゆりか、云々の子

供たちが「里の秋」を奉

うるは、「静かな静かな

里の秋」お吉に木の美の

落ちる夜は、「ああ母さん

とだ下」栗の実煮ま

すいろいろは、「この歌の基

になったのは、戦地の父

の慰問文として書いた藤原

信氏の「星月夜」だった。

い、萬葉ゆりか、云々の子

供たちが「里の秋」を奉

うるは、「静かな静かな

里の秋」お吉に木の美の

落ちる夜は、「ああ母さん

とだ下」栗の実煮ま

すいろいろは、「この歌の基

になったのは、戦地の父

の慰問文として書いた藤原

信氏の「星月夜」だった。

い、萬葉ゆりか、云々の子

供たちが「里の秋」を奉

うるは、「静かな静かな

里の秋」お吉に木の美の

落ちる夜は、「ああ母さん

とだ下」栗の実煮ま

すいろいろは、「この歌の基

になったのは、戦地の父

の慰問文として書いた藤原

信氏の「星月夜」だった。

い、萬葉ゆりか、云々の子

供たちが「里の秋」を奉

うるは、「静かな静かな

里の秋」お吉に木の美の

落ちる夜は、「ああ母さん

とだ下」栗の実煮ま

すいろいろは、「この歌の基

になったのは、戦地の父

の慰問文として書いた藤原

信氏の「星月夜」だった。

い、萬葉ゆりか、云々の子

供たちが「里の秋」を奉

うるは、「静かな静かな

里の秋」お吉に木の美の

落ちる夜は、「ああ母さん

とだ下」栗の実煮ま

すいろいろは、「この歌の基

になったのは、戦地の父

の慰問文として書いた藤原

信氏の「星月夜」だった。

い、萬葉ゆりか、云々の子

供たちが「里の秋」を奉

うるは、「静かな静かな

里の秋」お吉に木の美の

落ちる夜は、「ああ母さん

とだ下」栗の実煮ま

すいろいろは、「この歌の基

になったのは、戦地の父

巡回特別企画展開催

岩手県と盛岡市の共催で

昭和館

昭和館では、平成十三年から毎年全国各地で巡回特別企画展が実施されている。今年は戦後七十五年を記念して、岩手県と盛岡市の共催で、東京にある「岩手県立歴史博物館」と「平和祈念展示資料館」という国際施設との連携企画展「未来へつなぐ戦中・戦後の記憶」が、十月二日(金)から十一日(日)まで盛岡市民文化ホール展示ホールで開催された。

昭和館では、平成十三年から毎年全国各地で巡回特別企画展が実施されている。今年は戦後七十五年を記念して、岩手県と盛岡市の共催で、東京にある「岩手県立歴史博物館」と「平和祈念展示資料館」という国際施設との連携企画展「未来へつなぐ戦中・戦後の記憶」が、十月二日(金)から十一日(日)まで盛岡市民文化ホール展示ホールで開催された。

絶筆

陸軍大尉

猪瀬 德

昭和二十年四月十六日

フィリピンにて戦死

栃木県宇都宮市西原町出身 二十六歳

九段短歌

選者 安元百合子

抄本に餓死と記さる父想い贋沢な日々に頭下がりぬ
父日々の暮らしを大切に何気ない宝物そは家族なりと
「島海」の艦長は艦と心中すと偲ぶ子息に会見ひしも

弘町長から、従姉の高崎
馬小屋の壁赤く染め益地の炎甲府空襲今も忘れられ
馬小屋の壁赤く染め益地の炎甲府空襲今も忘れられ
甲州市 三森一雄 戸籍 曲

千葉市 石橋 勝由

甲州市 三森一雄 戸籍 曲

千葉市 石橋 勝